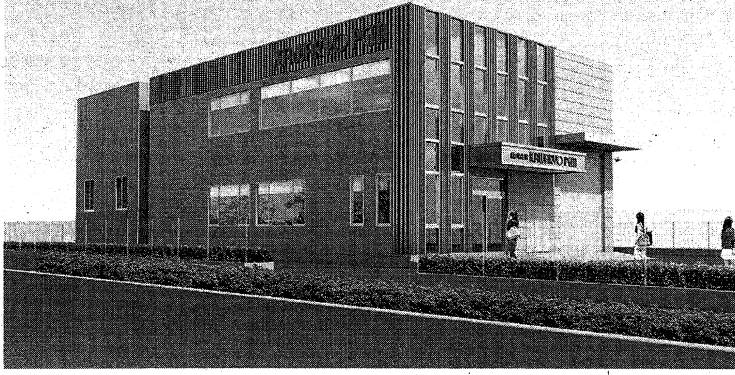


川良、隣接地に新工場

歯科から貴金属スクラップ回収

前処理工程を拡充

来年春稼働



新工場の完成予想図

川島グループで非鉄・貴金属リサイクルを手掛ける川良（本社：浜松市西区、川嶋昌利社長）は、貴金属リサイクル事業の前工程拡充を目的に本社工場隣接地に新工場を建設する。4月に着工し、2023年春から稼働を予定している。歯科関連から発生する金やパラジウムのリサイクル能力拡充を進めるとともに、太陽光発電設備を設置してゼロエネ工場化を目指す。将来的にはグリーン再生貴金属・レアメタル材の供給にもつなげる考え。投資額は約2億円を見込む。

太陽光発電設備も設置

同社は1981年に「川良商店」として設立。川島グループでアルミや貴金属、レアメタルなどのリサイクル事業を手掛ける。2021年に法人化し、社名を「川良」に改称し

た。同社の子会社としてKAWARUYOFGMとアーステクノサポートがある。直近の金属スクラップの取扱量は月間約4001500ト。売上高は22年3月期で約28億円。

新工場では、歯科関連の貴金属スクラップの回収から破碎・乾式抽出までを行い、その後の湿式抽出・精錬といった後工程は、川島グループの中部貴金属

の総合力を生かした事業展開を進めている。近年、同社は集荷体制の強化に取り組み、歯科関連の貴金属スクラップの回収量が増加している。そのため、一層の集荷対応力の強化を目指し、新工場の建設を決めた。新工場の運営はKAWARUYOFGMが担い、貴金属スクラップの熱溶解や分析、評価などを行う。新工場は川良の本社工場に隣接する用地の一面に建設する。太陽光発電設備を設置し、再生可能エネルギーを積極活用する計画。将来的な能力増強に備え、蓄電池の設置スペースも確保する。

新工場の稼働により工場のゼロエネ化を目指すとともに、二酸化炭素排出ゼロなど時代のニーズに即した付加価値をリサイクル材に付与し、競争力強化につなげていく考えだ。